

北九州高速鉄道株式会社

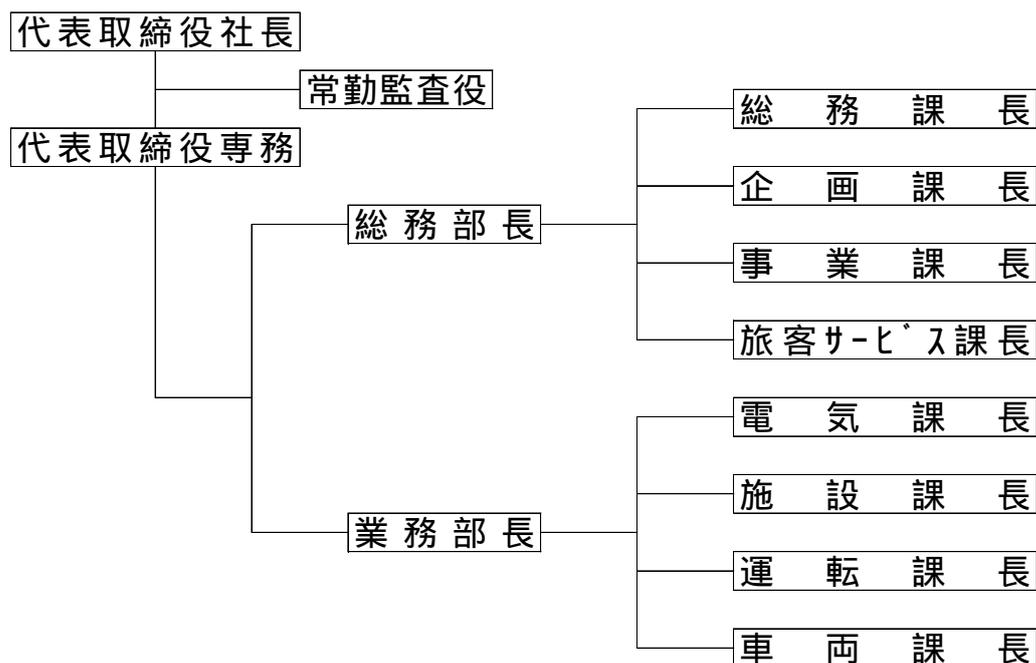
北九州高速鉄道株式会社は、鉄道の使命である輸送の安全性・運行の定時性の確保に努めています。

また、利便性や旅客サービスの向上に努め、乗客の増加対策を図るとともに、経営の効率化、経費の節減等経営基盤の安定に努めています。

〔設 立〕 昭和51年7月31日
〔所 在 地〕 北九州市小倉南区企救丘二丁目13番1号
Tel 093-961-0101
〔目 的〕 市街地の拡大及びモータリゼーションの激化による都市交通問題に対応し、健全な市街地整備を促進するため。
〔事 業〕 軌道法による一般運輸業、広告宣伝業等
〔資 本 金〕 3,000,000千円
＜うち本市出資額 3,000,000千円(100.0%)＞
〔決 算 期〕 毎年3月31日
〔主 務 官 庁〕 国土交通省
〔本 市 所 管〕 建築都市局計画部都市交通政策課 (Tel 093-582-2518)

1 法人の組織

(1) 機構図



(2) 役職員数

	人数				平均年齢
		うち本市出向者	うち本市退職者	うちその他	
役員	7人	2人	2人	3人	59歳
職員	132人	0人	0人	132人	48歳

(3) 役員名

- 〔代表取締役社長〕 岩科 健一
〔代表取締役専務〕 宮野前 敏雄（北九州高速鉄道株式会社総務部長）
〔取締役〕 林 誠二（北九州市建築都市局理事）
〔 " 〕 石丸 美奈子（財団法人北九州市芸術文化振興財団理事）
〔常勤監査役〕 植木 利雄
〔監査役〕 伊藤 公一（北九州市建築都市局総務企画部長）
〔 " 〕 磯部 久治（株式会社福岡銀行取締役常務執行役員北九州本部長）

2 事業の概要等

<北九州モノレールのあらまし>

- (1) 営業キロ 8.8km 全線複線（建設キロ 9.1km）
(2) 駅数 13 駅（駅間平均距離 733m）
(3) 建設費
 インフラ部 332 億円
 インフラ外部 349 億円
 計 681 億円
（延伸区間）
 インフラ部 105 億円
 インフラ外部 30 億円
 計 135 億円
(4) 運転時分 19 分
(5) 運転本数 平日 105 往復 土日祝 101 往復
(6) 運転時隔 朝ラッシュ時 6 分 昼間 10 分
(7) 運転速度 最高 65.0km/h 平均 33.9km/h
 表定 27.4km/h
(8) 車両数 40 両（4 両×10 編成）全電動車
(9) 車両規格 長さ 1 編成 60.2m 高さ 4.92m 幅 2.98m
(10) タイヤ 1 両当り 2 台車、1 台車につき 10 本（走行輪 4 本、案内輪 4 本、安定輪 2 本） ゴムタイヤ（チューブレス）
(11) 主電動機 75KW（全電動車、1 編成 1,200KW）
(12) 定員 392 人（うち座席数 145 人）

- (13) 運転方式 ワンマン運転 A T O
- (14) 保安設備 連続列車検知式自動列車制御方式 (A T C / T D)
- (15) 通信設備 列車無線及び集中ホーム監視装置
- (16) C T C 自律分散処理方式 (C P U) による制御
- (17) 桁本数 本線 P C 565本 鋼 45連
- (18) 桁規格 標準桁 (P C 桁)
サイズ L = 20m H = 1.5m W = 0.85m
- (19) 支柱数 R C 252基 鋼 125基
- (20) 桁高 道路面上 (最大) 19m (最小) 7.9m (標準) 12.5m
- (21) 変電設備 D C 1,500V 3カ所 (6,000KW)

3 主な事業実績 (平成20年度)

開業から25年目を迎えた当期は、お客さまの安全、正確、快適、利便の確保に努め、順調な運行を続け、開業からの輸送人員は、2億6,703万人に達しました。

全国的にマイカーの利用による公共交通機関離れが続く中で、輸送人員は、シルバーパスや100円きっぷの利用客の増加等により、1,127万人 (前期比2万人、0.2%増) で、18年度から3期連続して増客となりました。

運輸収入は、格安のシルバーパスや100円きっぷの増加により、運賃単価が低下したことにより、19億4,721万円 (前期比2,099万円、1.1%減) となりました。

運輸雑収は、高額な電照広告やラッピング広告等の獲得があり、広告料は増収となったが、タスポ導入によるたばこ購入客の自販機離れにより、構内営業料が減収したこと等で、1億9,607万円 (前期比463万円、2.3%減) となり、営業収益は、21億4,329万円 (前期比2,562万円、1.2%減) となりました。

営業費は、車両改造や新運輸管理システム等の設備更新などの経費が増加したこと等により、18億8,945万円 (前期比6,340万円、3.5%増) となり、当期の営業損益は、2億5,384万円の利益 (前期比8,902万円、26.0%減) となりました。

上記営業損益に営業外損益を加えた当期の経常損益は、3億5,209万円の利益 (前期比9,057万円、20.5%減) となり、旧運輸管理システム等の除却費用及び法人税等を差し引いた当期純損益は、5,759万円の利益 (前期比1億8,714万円、76.5%減) で、平成10年度以降11期連続で単年度黒字を計上しました。

設備投資については、運輸管理システムの更新等を実施しました。

4 市の関与の状況

(単位：千円)

区 分	平成19年度	平成20年度
出 資 金 の 状 況	3,000,000	3,000,000
補 助 金	0	0
委 託 料	358,895	383,061
貸 付 金 残 高	1,300,000	1,300,000

5 資産・収支の状況(平成20年度決算)

(1) 貸借対照表

平成21年3月31日現在(単位：円)

資 産 の 部		負債及び純資産の部	
科 目	金 額	科 目	金 額
(資産の部)		(負債の部)	3,694,038,365
流動資産	1,267,045,509	流動負債	562,478,072
現金及び預金	1,031,495,185	未払金	434,738,964
未収運賃	13,949,770	未払費用	6,870,723
未収金	20,295,240	未払法人税等	4,332,200
未収収益	2,525,690	預り金	1,795,970
未収法人税等	41,766,700	前受運賃	56,714,034
未収消費税等	32,041,543	前受収益	7,966,213
商 品	259,077	賞与引当金	50,059,968
貯 蔵 品	124,712,304		
固定資産	15,285,656,240	固定負債	3,131,560,293
軌道事業固定資産	15,228,413,980	長期借入金	1,300,000,000
建設仮勘定	57,205,050	退職給付引当金	237,402,800
投資その他の資産	549,085	預り敷金	600,000
貸倒引当金	511,875	預り保証金	2,550,000
		再評価に係る繰延税金負債	1,591,007,493
		(純資産の部)	12,858,663,384
		資本金	3,000,000,000
		資本剰余金	6,871,521,775
		資本準備金	6,871,521,775
		利益剰余金	638,061,204
		繰越利益剰余金	638,061,204
		土地再評価差額金	2,349,080,405
資産合計	16,552,701,749	負債及び純資産合計	16,552,701,749

(2) 損益計算書

自 平成 20 年 4 月 1 日

至 平成 21 年 3 月 31 日 (単位: 円)

科 目	金 額	
経常損益の部		
(営業損益の部)		
軌道事業		
営業収益	2,143,285,066	
営業費	1,889,447,110	
営業利益		253,837,956
軌道事業営業利益		253,837,956
(営業外損益の部)		
営業外収益		
受取利息	5,730,784	
雑収入	92,522,025	
営業外費用		
雑支出	1,982	1,982
経常利益		352,088,783
特別損益の部		
特別損失		
固定資産除却損	272,799,897	272,799,897
税引前当期純利益		79,288,886
法人税、住民税及び事業税	21,703,510	21,703,510
当期純利益		57,585,376